

過疎地域において域外大学生の多様な農業への関わりを創出する「起業家教育」モデルの構築

ー鳥取県大山町における実践からー

政策・メディア研究科 修士1年 霧生彩乃

研究目的 過疎地域において、域外大学生と地域農業との多様な関わり方を創出することを目的に、農業への関わり方の可能性を生産から販売までの実践を通して考える「起業家教育モデル」を設計・実装する。そのため、地域活動や農業に関心のある域外大学生が、地元の中学生を対象に、起業家教育プログラムを実施するマネジメントを行い、効果的なプログラムの設計と持続可能なプログラムの実施体制について考える。

研究背景

- 人口減少と高齢化の進展に伴い、地域農業や農村社会へ大きな変化が生じている。農業・農村の持続的発展のため、地方と外部が相互に関係しあった地域づくり、地域づくりの担い手育成が求められている。
→地域資源を活用した活動を地域において展開する主体の育成が必要。
- 農村振興において、農村振興において、個々人や経営の状況に見合った多様な組み合わせの中に、人権としての新たな仕事おこしを行っていく構想が必要であり、地域農業の再構成にもこの視点が不可欠である。(守友,2000)

研究対象:鳥取県大山町

大山町の概要

- ・人口:15,455人(令和4年7月1日現在)、高齢化率:40.3%(令和2年)の過疎地域であり、少子高齢化社会における地域経営の担い手確保の課題が顕在化している。
- ・主な産業は、農業、水産業であり、地域資源が豊かである。
- ・Uターン者により、農業体験や会員制農園、芝農家と協働したグランピングの実施など農的活動が展開され、他地域との交流も一部行われている。
- 地域資源を活用した活動が一部で行われているが、少子高齢化による地域経済の縮小に歯止めがかからない状況である。
- 農業・地域の持続的発展のため、地域資源を活用した活動を展開する地域の担い手を育成する必要がある。

研究方法

〈調査対象・分析方法〉

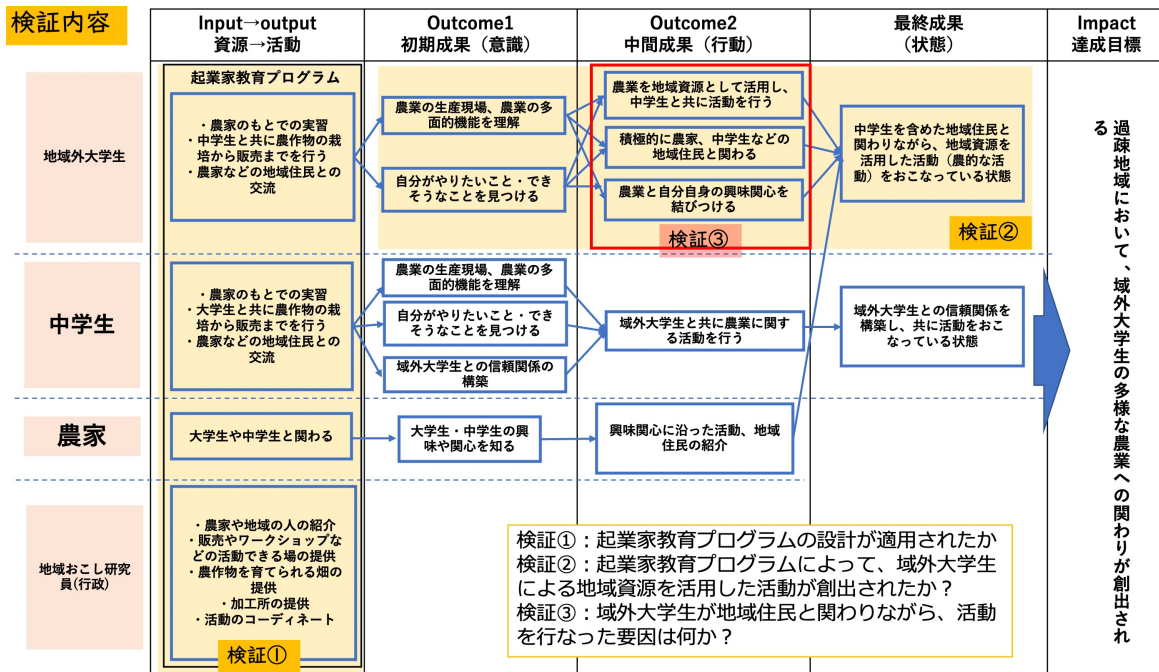
観察対象:プログラム参加者(中学生、大学生、農家)
事例の収集方法:参与観察、半構造化インタビュー、質問紙調査
分析方法:ライフストーリー、M-GTA

〈進捗状況〉

2022.8-12にかけて、「生産」から「販売」までを行う起業家教育プログラム「アグリ起業部」を実施した。プログラム実施期間中(8月~12月)に参与観察を行った。参与観察では、参加者同士ならびに参加者と研究者(筆者)との間になされる会話のやりとり、行動に着目し、フィールドノーツを作成した。

〈今後の予定〉

- ・事後アンケートとインタビューを行うとともに、フィールドノーツをもとにデータ分析を行う。
- 事後インタビューでは、地域資源を活用した活動が創出された過程、主体形成の過程について明らかにするための質問項目を設定する。
- ・プログラムの改善を行い、3月~8月にかけて再度プログラムを実施。



先行研究レビュー

地域と関係人口が困っていることや不安なこと(=弱さ)をお互いに出し合った上で、交換することにより、お互いの強さに交換すること(軸のずれたオフセットの交換)が可能になる。(国土交通省,2021)

地域における“関わりしろ”と偶発的に遭遇することができれば、訪問者は地域を継続的に訪問し、地域の人との関わりを持つ関係人口となると考えられる。それには、計画的に偶発性を生み出すとともに、関係人口(となる人を含む)と地域のつながりをサポートすることが重要となる。(国土交通省,2021)

主体形成:「住民参加まちづくりをへの参加を通じて、地域課題を認識し、地域のビジョンを共有しながら、自己の成長と共に、課題解決のための公益的で創造的な活動の担い手となる、新たなコミュニティが形成された状態」(醍醐ら,2015)

内発的発展:「それぞれの地域に適合し、地域住民の生活の基本的必要と地域の文化伝統に根ざして、地域住民の協力によって、発展の方向と道筋を作り出している創造的な事業」(鶴見,1989)

地域:「地域とは、定住者と漂泊者と一時漂泊者とが、相互作用することによって、新しい共通の紐帯を創り出す可能性を持った場所」と定義する(鶴見,1989)

社会的・学術的意義

- ・域外大学生の農業への多様な関わりを創出するモデルの構築により、地域住民と地域外の人々が協働し、主体的に活動を行う地域づくりの効果的な支援を行える。
- ・農業を基盤とする農村において、農村を支える担い手を育成するモデルとなり、農業・農村の持続的発展に資する。